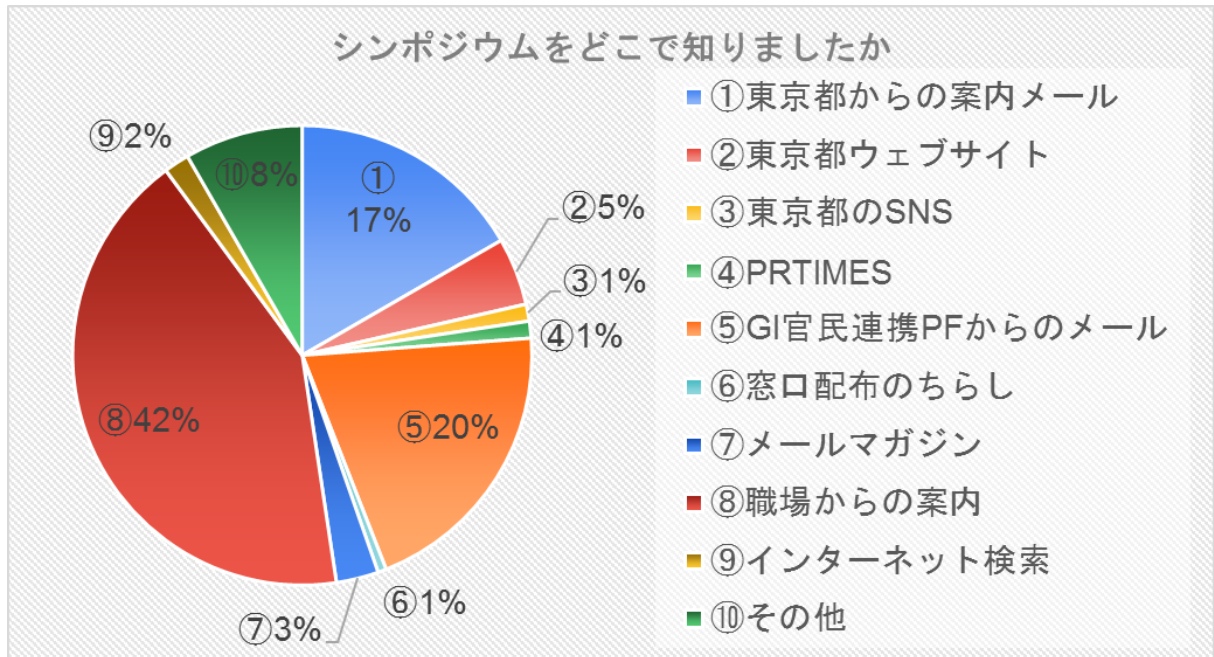


「緑農住」まちづくりシンポジウム アンケート結果

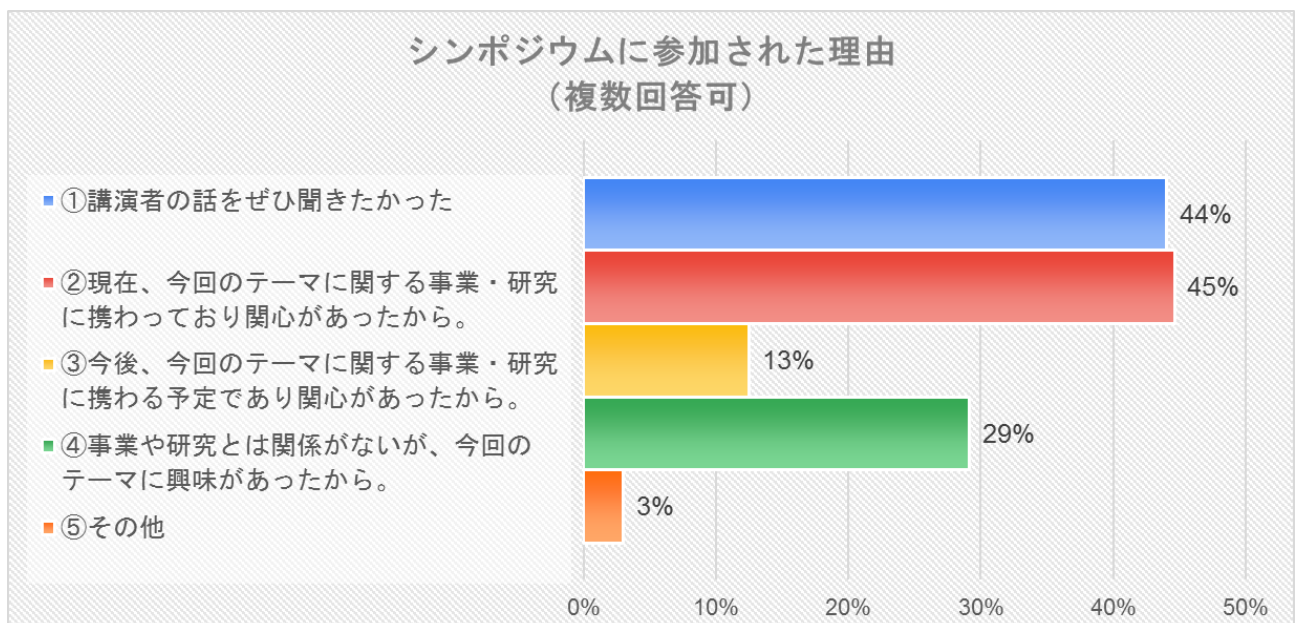
1) アンケート項目について

・回答者数: 168 名 (参加者数 332 名、回答率 50.6%)

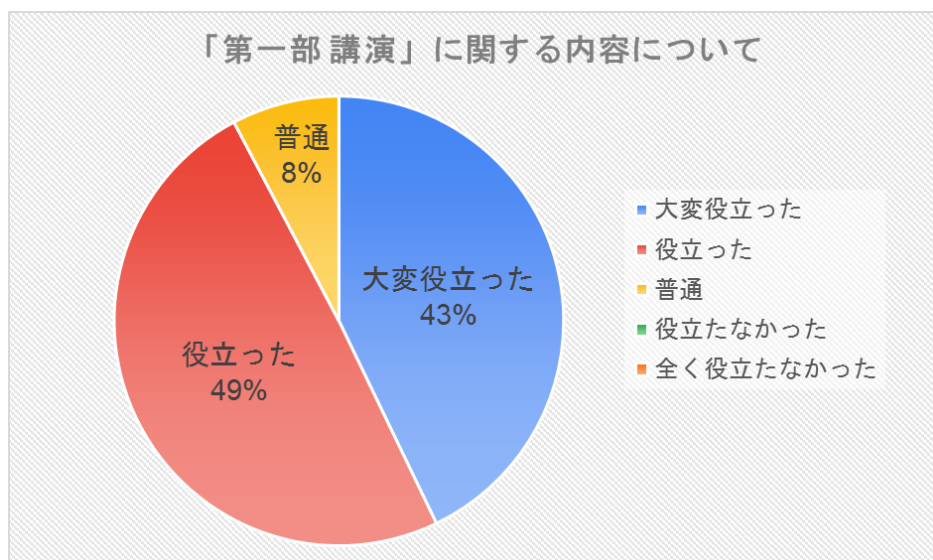
■ シンポジウムをどこでお知りになりましたか？



■ シンポジウムに参加された理由をお聞かせください。(複数回答)



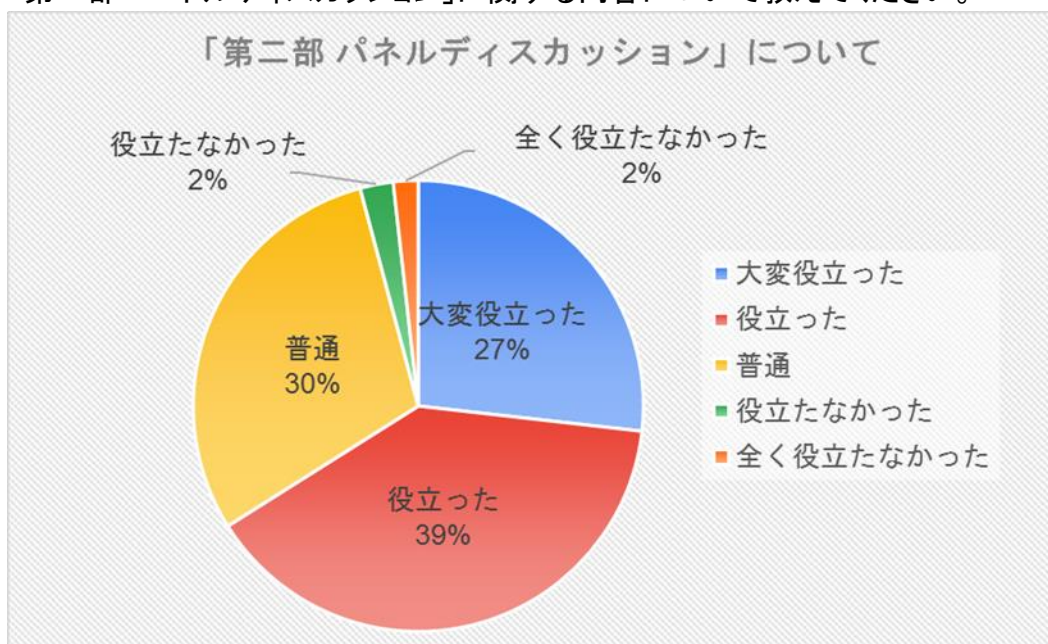
■ 「第一部 講演」に関する内容について教えてください。



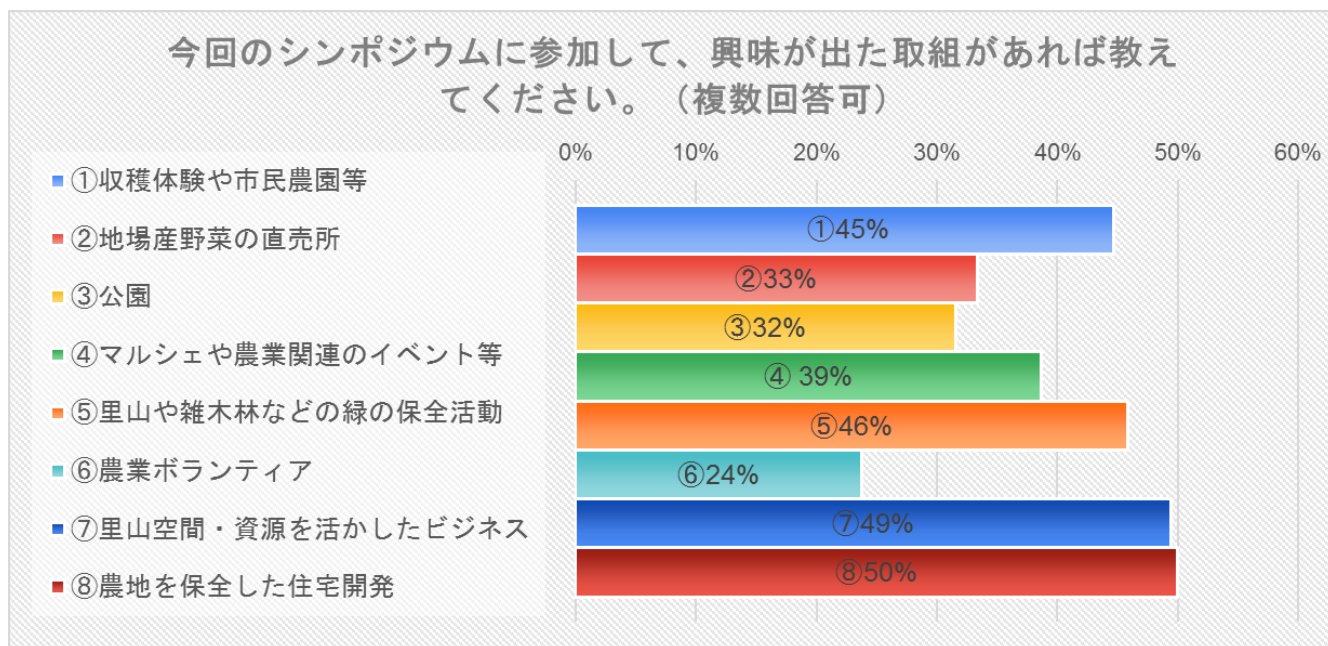
■ 役に立ったと思う講演をお教えてください。(複数回答)

講演内容	回答数	割合
① 東京都市整備局都市づくり政策部緑地景観課	55	33%
② 緑農住まちづくりとは	128	76%
③ 都市農業と緑農住まちづくり	53	32%
④ 農業従事者から見た緑農住まちづくり	102	61%
⑤ 里山保全と緑農住まちづくり	60	36%
⑥ 住宅開発を通じた農地保全	83	49%
⑦ 町田市におけるみどり空間活用に向けた取組	64	38%
⑧ 最新の都市農業トレンドと都市農業の可能性	91	54%

■ 「第二部 パネルディスカッション」に関する内容について教えてください。



■ 今回のシンポジウムに参加して、興味が出た取組があれば教えてください。(複数回答可)



2) 自由回答について

■ 第一部で役立った点や、もっと知りたかった内容について、以下にご自由にご記入ください。

(第一部全体に対するご意見・ご感想)

- ・ 東京都の現状についてよく分かった。東大の提案についての発表も、提案に至った動機から提案内容に至るまで、共感できる内容が多かった。
- ・ 本当に様々なジャンルが関与する領域なので、新しい知識に触れた感じです。
- ・ 都市部での緑地と住居のバランスの大切さが理解できた。
- ・ 異なる立場から緑・農・住に対する考え方やアプローチの状況を知ることができた。

(講演内容)

- ・ 多方面からの講演で知らない分野の取り組みについても知ることができた。
- ・ 時間に制約があるなかで非常に有意義な内容であった。特に、「緑」「農」「住」それぞれからのアプローチの現状と課題について詳細に知ることができた。
- ・ 横張先生のご講演において、他のジャンルにおける例を挙げながら時代の変化が示され、そこを踏まえた今後の都市農業振興について解説され大変興味深く感じました。
- ・ 山口氏のご講演では、都市農業に係る地域のニーズに農業者自らが気付くことの大切さが語られ、農業経営者ならではの視点が大変参考になりました。
- ・ 横張氏、山口氏のお話は講演として独立したものを聴きたい濃い内容でした。

(農に対して)

- ・ 都市農業が興味深かった。農地がある自治体と無い自治体の環境面での違いも知りたい。
- ・ 無駄に消えていく農地を価値ある都市の緑として残していく取り組みについて詳しく知ることができた。
- ・ 山口氏のお話で、積極的に営農をしていない農家が少なくないことや、苦情をきっかけに営農をやめてしまう農家があることなど、都市農地の現状をお聞きでき、都市農地の価値の普及や、地域の理解の必要性などを改めて感じました。
- ・ 都市での農業の苦難を知ることができた、農家さんには感謝します。

■ 第二部で役立った点や、もっと知りたかった内容について、以下にご自由にご記入ください。

(第二部全般)

- ・ 制度推進のために必要とするハード面ソフト面の課題や解決案をパネリストのコメントから知ることができた。
- ・ 官民のそれぞれの問題点をうかがうことができた。
- ・ 講演だけでは聞けなかった内容が聞けた。

(緑農住について)

- ・ 特定生産緑地の 10 年以降の取り組みを今から考えなくてはならないという危機感を共有できた点は大きいと感じる。税制も含め、抜本的な制度設計を検討していただきたい。
- ・ 都市の農業は大きなポテンシャルがある一方で、情報共有や連携の機会の不足によりそのポテンシャルを活かしきれていない状況を知ることができた。
- ・ 地権者が土地を手放す際に、誰に声をかけていいのかが分からないというのが印象的だった。
- ・ 皆様のお話から、各主体における内部連携と、主体間での連携の両方が緑農住まちづくりには大切なのだと改めて感じました。

■ 特に印象深かったテーマや話題がございましたら、ご記入ください。

(農業)

- ・ 東京における農業に高いポテンシャルが秘められていること。
- ・ 相続による農地の減少への対応
- ・ 山口トマト農場の取り組み
- ・ 緑農住のまちづくりの考え方と事例紹介
- ・ 農業従事者の年収の少なさには、とても共感しました。嵐の日以外は、毎日畑に出てこられていて、ご苦労を目の当たりにしています。このことが、後継者を失い、自足自給率を下げていると考えています。
- ・ 世界的には農がまちづくりに欠かせないものになっていること。
- ・ 農業者からの緑農住まちづくりに対する考え方
- ・ 都市農業において苦労した点（土の問題、騒音など）

(農地を保全した開発)

- ・ 農地を保全した住宅開発の事例が、これまでにない取り組みとして印象に残りました。今後5年後、10年後、さらにどのような形に変化していくのか、住民の意識も含めて継続的に検証してほしいテーマと思いました。

(町田市)

- ・ 町田市の地域プラットフォーム作りが印象深かった。どのような主体をどの段階で巻き込んで、どのような意思決定をしていくと有効なのかを知れると、これから活動を始める地域にとって非常に参考になる。

■ その他、「緑農住まちづくり」に対するご意見・ご要望などございましたら、ご記入ください。

(運営に対するご意見)

- ・ シンポジウムのほかに現場見学の機会があれば参加したい。
- ・ 非常に勉強になるいい機会でした。今後とも継続し開催していただきたい。

(事業に対するご意見、ご感想)

- ・豊かなまちづくりは誰しもが望むことであり、産学官民が情報を共有して課題解決に取り組むことが大切である。なかでも、緑農住まちづくりは世代と地域を超えて継続して取り組むテーマであり、そこから社会連携や国際交流が醸成でき希望に満ちた未来に繋がるのではないかと思う。
- ・今回、いろいろな立場の方のお話を聞けたので、WEBなどで立場や所属を超えた情報発信の場があると、非常に興味が湧くと思う。
- ・日常的に緑や農に接することで癒されると共に、生産者に対して感謝の気持ちを持つ事ができ、共感する力を育てる事ができると思います。心を豊かにするヒントが緑や農にあるということも多くの人を知る事によって、緑農住まちづくりが推進していくと思います。
- ・収穫体験から援農体験まで、さまざまな経験をつんで消費者の意識がどう変化していくのか、農と隣接した住を楽しむ生活が「ゆとり」として根付くのか是非検証したいです。
- ・持続可能な緑農住の実践事例を増やして欲しい
- ・農地がない自治体は、農に関して関心が薄い印象を持っています。しかし、農は食糧自給率の解決やコミュニティ形成の場、教育の場としても大いに可能性を秘めていると感じました。自治体への外部からの働きかけが欲しいと思いました。